

本校は、「夢・志の芽を育む学校づくり」をめざしています。「価値あるものへのあこがれ」・「価値あるものへの挑戦」・「役に立てる喜びを实践できる活動」の3つを通して、子どもたちが“自分自身の良さを発見する”ことを大切にしてきました。

特に杉原千畝氏の人道精神を受け、「ひびきあいの日(メノラの灯)」の取り組みを通して、命を大切にすることや思いやりの心の育成を目指しています。

### 1. 名古屋市立平和小学校との交流

昨年11月25日(金)、杉原千畝氏が卒業した名古屋市の平和小学校の3年生・6年生と本校の児童との交流会を行いました。ファミリーセンターにて互いの学校紹介をしたあと、「メノラの灯」の最終リハーサルを見てもらいました。「今まで千畝さんのことは本を読んで知っていましたが、実際にビザの発給を決断する場面を見て感動しました。」と平和小学校の代表の児童が感想を発表してくれました。また、名古屋市教育委員会・名古屋市役所・岐阜県教育委員会の方も一緒に参観してくださいました。このように多くの方と交流ができるのも、杉原千畝氏の人道精神が縁であり、来年度もいろいろな学校などとの交流を続けていきたいと考えています。



### 2. 人道創作劇「メノラの灯」の上演

「命を救えない者に、国は救えない。」「よし、私は自分の良心に従う。発給しよう。彼らにビザを！」これは八百津小学校の人権創作劇「メノラの灯」での台詞のひとつです。11月26日(土)に「ひびきあい集会」の第一部として、「メノラの灯」を上演しました。



劇づくりの中で、「ビザを求めるユダヤの人はどんな気持ちだろう。」「千畝さんがビザの発給を決断した時、どんな思いだったのか。」など登場人物の気持ちを考えながら、台詞の言い回しや演技をみんなで作ってあげていきました。

上演当日には、金子町長をはじめ、多くの来賓のみなさまや保護者、地域の方など約370人が観に来てくださいました。今年度で11回目を迎えた「メノラの灯」ですが、1月31日(火)には、ぎふ清流文化プラザで行われる「ふるさと教育フェスタ」において、新たな人道創作劇を上演する予定になっています。いままでの「メノラの灯」としてはひとまず今年度で最後になりますが、来年度からも新しい人道創作劇として上演していきます。

### 3. プロジェクト活動の成果交流

「ひびきあい集会」の第二部として、ひびきあい週間中に取り組んできた児童会活動や各学級でのボランティア活動・思いやりのある行動について、報告・交流を行いました。「私は毎日、立ち止まってあいさつすることをがんばりました。」「僕はトイレのスリッパを見て、整えるようにしました。」など、この活動を通して、全校のみんなが仲間のためになる行動を自分から進んでできるようになりました。学校には、いつも元気なあいさつの声が飛び交い、優しさあふれる八百津小学校になっています。



最後に全校で「OMOIYARIの歌」を合唱しました。この歌にこんな歌詞があります。『「ありがとう」と言われたら、なぜかうれしくなったよ。OMOIYARIは世界を幸せにする魔法』こんな気持ちを大切に、杉原千畝氏の人道精神をこれからも受け継いでいきたいと思えます。